

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 【学校像】

「高い志」を持ち、既存の枠を超える、新たな価値を生み出す真のリーダーを輩出する学校。

## 【生徒に育みたい力】

- 基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、「高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。
- ハイレベルな授業を通じて、進路実現を可能にする高い学力とのびやかな知性を育む。
- 生徒の自主性を重んじ、互いの協力や切磋琢磨を通じてたくましい人間力を育成する。

## 2 中期的目標

- グローバルリーダーズハイスクールの特色づくりのため、本校の3つの教育目標を3年間の生徒育成計画「北辰プロジェクト」に基づいて取組むとともに学校の組織としての教育力の向上のための取組みを実践する。

## 1 「高い志」の涵養

- (1) 「高い志」を涵養するための取組みを継続発展させる。

ア 文理融合の課題研究や探究活動等を通じて主体的に学ぶ意欲と姿勢を育み、大学での学びにつなげる。

イ 卒業生人材ネットワークを拡大し、大学等と連携する等、卒業生による支援体制を強化する。

- ① 大学教授、企業等で活躍する卒業生等による「卒業生講座」「学問発見講座」
- ② 京都大学を中心とした「卒業生研究室訪問」
- ③ 関東方面への大学等見学会「東京スタディツアー」
- ④ 第1学年対象の「スプリングセミナー」
- ⑤ 第2学年対象の「オータムセミナー」

※スーパーグローバル大学及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数合計150名以上を維持する。

(令和元年度(令和2年度入試):151名、令和2年度(令和3年度入試):173名、令和3年度(令和4年度入試):140名)

※高等学校卒業時の進路選択について納得している生徒の割合90%以上を維持する。(令和元年度:90%、令和2年度:96%、令和3年度:96%)

## 2 「枠を超える知性」を備えた真のリーダーの育成

- (1) 部活動・学校行事等を通じてリーダーとしての資質を高める。

ア リーダー育成研修を継続させる。

イ 理学療法士による部活動サポート事業を継続発展させる。

- (2) グローバルな視点で考えることができる人物の育成のための取組みを継続発展させる。

ア 海外宿泊野外行事及びその事前・事後学習、またその他さまざまな国際交流行事について、生徒自らがSDGsの視点も踏まえ主体的に企画・運営することを通じて、多様性受容力を鍛え、コミュニケーション能力を高める。

※海外宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上

(令和元年度:99%、令和2年度:コロナ禍で未実施、令和3年度:国内実施・99%)

イ 英語教育の内容をより一層充実させる。

## 3 「自主自律の精神」の育成

- (1) 生徒会活動、部活動、学校行事を中心に、互いに違いを認め共に生きる力や協調性、豊かな感性を育む。

- (2) 地域と連携した活動を通じて、地域とつながるこころを育み地域に貢献する意識の向上を図る。

※地域と連携した活動等への参加回数生徒一人当たり平均年間1.0回以上となるようにする。

(令和元年度:生徒一人当たり年間1.0回、令和2年度:コロナ禍で未実施、令和3年度:生徒一人当たり年間0.3回)

- (3) 自主的な読書活動の支援を通して自学自習の精神を育成する。

※1,2年生の一年間の読書量一人当たり平均10冊以上を維持する。

(令和元年度:一人当たり平均15冊、令和2年度:一人当たり平均14冊、令和3年度:一人当たり平均9.2冊)

## 4 学校の組織としての教育力の向上

- (1) 新型コロナウイルス感染症対応をはじめ教職員の危機管理意識の向上を図る。

- (2) 教員の授業力の向上を図る。

具体的には、新学習指導要領及び観点別評価の実施、ICTを活用した取組みの推進、研究授業や相互授業見学の充実、大学等との連携の深化を図る。

※授業観察の際の生徒アンケートにおける授業信頼度平均90%以上を維持する。

(令和元年度:平均89%、令和2年度:平均93%、令和3年度:平均95%)

- (3) 教育環境の整備と働き方改革の推進を図る。

教員の健康を守るため、教育環境の整備を図るとともに学校運営の在り方等を見直し、時間外在校等時間の縮減に努める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒版】</p> <p>・「学校に行くのが楽しい」「学校生活についての先生の指導には納得できる」等の例年通りの項目については、今年度も肯定的回答が高い割合を占めた。コロナ禍において、依然として様々な制限がある中でも、生徒たちが充実した学校生活を送っていることがうかがえる。今年度付け加えた項目である「学校はICT環境を効果的に活用している」は76%、「探究活動の取組みは、充実したものになっている」は86%であった。今後も生徒の「高い志」を涵養するための取組み、教育相談体制も含む生徒指導等とともに、ICTの活用や探究活動の取組みのさらなる充実をめざしていくことが大切である。</p> <p>【保護者版】</p> <p>・今年度から追加した「探究活動の取組み」に関する項目(肯定的回答99%)も含め、本校の多様な教育活動に対し、保護者から高い割合で支持されていることがうかがえる。今後もさらにそれぞれの取組みを充実させていくことが必要である。</p> <p>・「生徒は、授業がためになると言っている」という設問に対する肯定的回答は92%(昨年度・一昨年度92%)であった。引き続き、生徒、保護者の授業への信頼度を高めるため、教員の授業力向上を図り、さまざまな取組みの内容をより一層深めていくことが必要である。</p>	<p>第1回(令和4年6月11日(土))</p> <p>・昨年度、第3回の学校運営協議会で、課題研究の成果を地域にも発表する場を企画し、生徒たちが社会とつながる実感を持ってほしい、と提案したところ、すぐに実現した。今後も、部活動等においても、地域とのつながりの中で、小中学生にスポーツの指導をする等、「茨高スタイル」のようなものができればよいのではないかと。</p> <p>第2回(令和4年10月8日(土))</p> <p>・コロナ禍においても工夫しながら様々な取組みを実施しているが、やはり「対面」での取組みは大切であると思われる。また、高校での様々な経験が、年月を経ても、社会に出てからのリーダーシップや人間関係にも生かしているのではないかと。</p> <p>第3回(令和5年2月18日(土))</p> <p>・宿泊野外行事の行き先等、まだまだ海外をめざすのは難しい時期であると思われる。しかし、今だからこそ、リモート等で世界の国々につながるチャンスがあるのではないかと。これからも、実際に現地に行けなくても、グローバルな問題意識を持ち続けることを意識してほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 高い志の涵養	(1) 「高い志」を涵養するための取組み ア 課題研究の充実 イ 卒業生との連携の強化による取組みの充実	(1) ア 大学の先生等の協力を得ることによって、2年生全員を対象として実施する課題研究の質を高める。 ・課題研究の発表の場を近隣の高校の先生や生徒に公開する。 イ 本校卒業生の人材ネットワークを広げ、学問及び社会に対する興味・関心を高める取組みを充実させる。 ・卒業生講座及び学問発見講座を継続させる。また、「スプリングセミナー」「オータムセミナー」等も含めて、卒業生によるキャリア教育に資する講演会や講座を実施する。 ・京都大学を中心に卒業生の研究室訪問を継続する。 ・関東方面への大学等見学会を継続させる。その際の卒業生との連携を強化し、より広い視野で進路を考える場とする	(1) ア・大学の先生等に課題研究や課題研究につながる授業に協力していただく回数[76回]◎ ・近隣の高校から参加の先生や生徒の人数5人以上 [教員1人] イ・キャリア教育に資する卒業生の講演会や講座の数10以上 [卒業生の講演会2回 学問発見講座は14講座、卒業生講座は10講座] ・卒業生の研究室訪問10か所以上 [中止] ・関東方面への大学等見学会の参加生徒15名程度、支援する卒業生15名以上 [中止] ・各取組みに対する生徒の満足度90%以上 [学問発見講座96%、卒業生講座96%、卒業生の研究室訪問及び関東方面への大学等見学会は中止]	(1) ア・大学の先生等に課題研究や課題研究につながる授業に協力していただく回数[76回]◎ ・近隣の高校から参加の先生や生徒の人数 [教員4人]◎ 本校の取組みの形式だけではなく、その意義などについても意見交換ができる有意義な機会であったため イ・キャリア教育に資する卒業生の講演会や講座の数10以上 [卒業生の講演会2回 学問発見講座は14講座、卒業生講座は10講座]◎ ・卒業生の研究室訪問 [11か所]◎ ・関東方面への大学等見学会の参加生徒 [24名]◎、支援する卒業生 [31名]◎ ・各取組みに対する生徒の満足度、学問発見講座 [94%]◎、卒業生講座 [97%]◎、卒業生の研究室訪問及び関東方面への大学見学会 [100%]◎
2 枠を越える可能性を育んだ	(1) リーダー育成プログラムの充実 ア リーダー育成プログラムⅠの充実 イ リーダー育成プログラムⅢの充実 (2) グローバルな視点で考えることができる人物の育成のための取組み ア 生徒主体の宿泊野外行事及び種々の国際交流行事の取組み イ 英語教育の充実	(1) ア 各部・同好会等の部長等に対して、リーダーとしての資質を高めていくプログラムを充実させる。リーダー論やコーチングの手法、人間関係トレーニング等についての講演等を実施する。 イ 部活動に参加する部員を対象に、理学療法士による指導・支援を定期的実施し、健康を自己管理する能力を高めるとともに、高い志を持ち、諸活動において良い結果を出せるよう取り組む。 (2) ア・第2学年の宿泊野外行事については、SDGsの視点を取り入れ、地域等との交流や地域の歴史・文化の理解を深めるための事前・事後学習等も含めて、生徒が主体的に取り組む。 ・長期留学生の受入れ、海外からの研修旅行生との交流、第1学年全員を対象とした大阪大学等の留学生との交流(B&S)について、生徒が主体となって異文化理解や他国理解を深める。 イ・英語の授業を通じて、英語でのプレゼンテーションやディベートのスキルを向上させる。 ・「英語イマージョンプログラム」を実施し、英語運用能力を高める。	(1) ア・リーダー育成プログラムⅠの実施回数10回以上 [11回] ・参加生徒のアンケートにおける満足度90%以上 [100%] イ・リーダー育成プログラムⅢの実施回数5回以上 [3回] ・参加クラブ数10以上 [6] (2) ア・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上 [99%] ・交流する大阪大学等留学生数45名以上 [25名] イ・授業後における生徒の満足度80%以上 [95%] ・英語イマージョンプログラム実施後の生徒アンケートにおける満足度90%以上 [96%]	(1) ア・リーダー育成プログラムⅠの実実施回数 [13回]◎ ・外部講師による講演参加生徒のアンケートにおける満足度 [95%]◎ イ・リーダー育成プログラムⅢの実実施回数 [5回]◎ ・参加クラブ数 [34]◎ (2) ア・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度 [99%]◎ ・交流する大阪大学等留学生数30名(リモートによる)+世界の屋台体験神戸大学留学生7名(対面)合計 [37名]◎ 生徒の満足度 [97%] 大阪大学の留学生派遣人数が制限されたが、神戸大学の留学生が別事業に参加。生徒の高い満足度が得られたため。 イ・授業後における生徒の満足度 [94.3%]◎ ・英語イマージョンプログラム実施後の生徒アンケートにおける満足度 [87%]◎ 1年生140名、2年生23名参加 1年生は3分の1以上の生徒が合参加し志の高さが現れる取り組みとなった。
3 自主精神の育成	(1) 生徒会活動、学校行事における取組みの充実 (2) 地域とつながるこころの育成 (3) 自学自習の精神の育成	(1) 生徒会執行部を中心とする生徒議会、各種委員会の活動を指導・支援し、生徒自治による体育祭、文化祭等の学校行事の取組みを充実させる。 (2) 生徒に地域と連携した活動等への積極的な参加を推奨し、地域とつながるこころ、自主自律の精神の育成をめざす。 (3) さまざまな分野の書物を定期的に紹介する等、読書指導を推進し、自主的な読書活動につなげるにより自学自習の精神を育成する。	(1) 生徒対象の学校教育自己診断における体育祭及び文化祭についての設問に対する肯定的回答90%以上 [体育祭95%、文化祭95%] (2) 参加した地域活動の種類30以上 [15] (3) 生徒一人当たりの平均読書量年間15冊以上 [9.2冊]	(1) 生徒対象の学校教育自己診断における体育祭及び文化祭についての設問に対する肯定的回答 [体育祭98%、文化祭95%]◎ (2) 参加した地域活動の種類 [35種類]◎ (3) 生徒一人当たりの平均読書量年間 [9.2冊]△

府立茨木高等学校

<p>4 学 校 の 組 織 と し て の 教 育 力 の 向 上</p>	<p>(1) 危機管理意識の向上</p> <p>(2) 授業力向上のためのシステムの充実</p> <p>(3) 働き方改革の推進</p>	<p>(1) ア 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用、手洗い、三密を避ける指導の徹底を継続する。また、休校等の場合は、すみやかにオンライン授業へ移行する。 イ いじめ・虐待等の生徒事案の対応及び未然防止を行うとともに、教育相談会の実施をはじめ教育相談体制のより一層の充実を図る。 ウ 「教職員の不祥事の防止(体罰・セクハラ等の防止を含む)」、「個人情報の適正な管理」及び人権に関する教職員研修を行う。</p> <p>(2) ア 本校における生徒1人1台端末の活用促進に向けたアクションプランの「ステップ2」の取組みを推進する。 イ 生徒1人1台端末等を活用したICTを効果的な授業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進するための授業研究や大学等との交流をさらに進める。加えて各教科において観点別評価を実施する。 ウ バディシステムを継続実施及びグループウェアソフトを利用したオンライン互見授業の実施により、教員の授業力を向上させる。 エ 全教員の授業観察の際に、管理職によるアンケートを生徒に実施・分析し、授業アンケートとともに授業力を把握する材料とする。</p> <p>(3) ア 全校一斉退庁日及び週1回のノークラブデーを徹底するとともに時間外が80時間を超えた者にヒアリングをする。 イ ICTの活用等による業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) ア・必要に応じて注意喚起を行う。加えてクラブ代表者会議等を通じても行う ・オンライン活用研修1回以上(新規) イ・安全・安心アンケート年2回、いじめアンケートを年間1回実施[ともに1回] ・教育相談に関する事例検討会議3回以上[5回] ウ 「教職員の不祥事」、「個人情報の適正な管理」及び人権に関する教職員研修3回以上[3回]</p> <p>(2) ア・[生徒・学校教育自己診断]「学校はICT環境を効果的に活用している」75%以上(新規) ・ICTの効果的な活用に関する教員研修1回以上(新規) イ・ICTの効果的な授業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進するための研究授業年10回以上[4回] ウ・互見授業教員一人当たり平均年2回以上[3.9回] エ・生徒からの授業信頼度90%以上[95%]</p> <p>(3) ア 時間外在校等時間・年間800時間以上の者を前年度より減少させる(新規) イ・職員会議の資料電子データでの共有率20%以上[20%]</p>	<p>(1) ア・代表者会議を通じて生徒の意識向上、感染防止の徹底継続により、学校休業することなくかつて行われた形に限りなく近いすべての行事の実施が叶ったことは非常に大きな意味があった。○ ・対面で実施できオンライン活用の必要はなかった。 イ・安全・安心アンケート[年間2回]、いじめアンケートを[年間1回]実施○ ・教育相談に関する事例検討会議[5回]実施○ ウ 「教職員の不祥事」、「個人情報の適正な管理」及び人権に関する教職員研修[3回]実施 ○</p> <p>(2) ア・[生徒・学校教育自己診断]「学校はICT環境を効果的に活用している」[76%] ○ ・ICTの効果的な活用に関する教員研修[1回] ○ イ・ICTの効果的な授業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進するための研究授業年[58回] ○ ウ・互見授業教員一人当たり平均年[4.8回] ○ エ・生徒からの授業信頼度[91%] ○</p> <p>(3) ア 時間外在校等時間・年間800時間以上の者を前年度より減少させる[同数[13名] ]△ イ・職員会議の資料電子データでの共有率[30%] ○</p>
--	--	--	---	--